

事業概要書（岡山マインド「こころ」）

事業名	2018年7月西日本豪雨 真備町の新しいまちづくりプロジェクト				
開始日	2018年10月13日	終了日	2018年3月30日	日数	170日
団体名 (カウンターパート)	特定非営利活動法人 岡山マインド「こころ」				
担当者名	多田 伸志	スタッフ人数	常勤3名、非常勤20名		

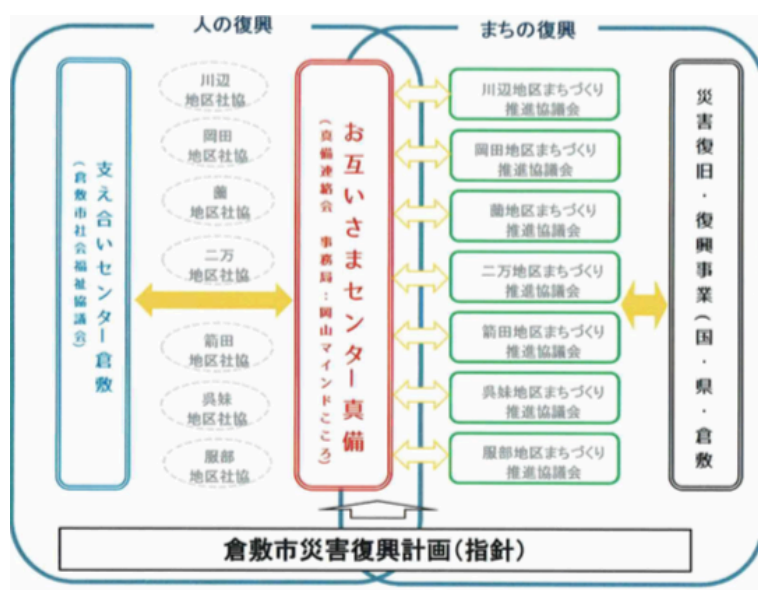
事業費総額（税込）	5,000,000円
Civic Force 事業枠	2,000,000円
その他資金	みんなでつくる財団：3,000,000円

事業目的	音楽活動の再開と「支え合いセンター」の運営を通じた地域コミュニティの再建
事業全体の概要	<p>● <u>特定非営利活動法人 岡山マインド「こころ」とは</u></p> <p>岡山・倉敷地域で暮らす心の「病」を抱えた当事者・家族が安心して生活できる支援体制とやさしい地域づくりを目的に、2002年3月に設立したNPO法人。活動の柱は、1)当事者による自助・就労活動、2)心の「病」を抱える当事者が安心して生活できる拠点づくりと地域づくりの2つ。背景には、精神障がい者は「隠し、隠される者」「与えられるだけの存在」であったというこれまでの歴史のなかで、精神障がい者に対する地域住民の理解不足の課題がある。当団体は、「“自立”は自分で決めたい」「自分の障がいを隠さずにホッとできる場がほしい」「仲間とともに、ボチボチでも尊厳を持った暮らしを作りたい」などの思いを持つ20名の精神障がい当事者らによってスタート。事務所兼店舗を自分たちで建てることから始め、高齢者向けの弁当配達ボランティア、地域の子どもたちを預かる「マインド親子クラブ」、音楽祭の開催や地域のイベントの音響機材提供と手伝いなどを通じて地域に貢献してきた。2011年には念願のグループホームと地ビール醸造所、ビアホールを立ち上げ、瓶にラベルを貼ったり、レストランでの接客や配達もするようになり、安心して暮らせる拠点作りと地域の人々が気軽に立ち寄れる場づくりの両方を実現させつつあった。</p> <p>● <u>真備町と岡山マインド「こころ」の被災状況について</u></p> <p>「平成最悪の豪雨」といわれた西日本豪雨の被害は、倉敷市や総社市のベッドタウンとして急速に人口が増加しつつあった真備町（人口約23,000人）に甚大な被害を及ぼし、真備の生活圏約8割が浸水した。代表理事の多田伸志は、7日朝にダイビング用の足ひれをつけて濁流を泳いでグループホームに向かい、取り残されたメンバーを救出。水がひいた翌日からは町内外の障がい者や支援者とともに地域の家々の泥出しや清掃を行うボランティアを組織し、地域の復興支援に貢献した。しかし、醸造所は一部プラントが汚泥に埋まり、作業所として約7千万円をかけて整備したばかりの製麦施設が全壊。岡山大学資源植物科学研究所などとも協力し、大麦生産・加工から醸造まで岡山県内で</p>

行う「純倉敷産ビール」として販売の準備を進めていたが、完成間近でほとんどが失われた。併設するグループホーム 8 部屋が全壊、12 部屋も被災し、利用者 18 人は真備町内の精神科病院に避難所入院することになった。現在はグループホーム事業の再建を急ぎ、16 名が精神科病院から戻ることができ、ストップしていた地ビール醸造・販売事業も少しずつ開始できるようになっている。また、利用者の生きがいともいえる地域での音楽活動が、音響機材や楽器の被災によって縮小している。企業や復興支援団体の支援により作業所の改修の目処は立ちつつあるが、利用者たちはまだこれまでつくり上げてきた自分たちの生活を取り戻すことができていない。

● 西日本豪雨災害後の活動について

約 5600 戸が浸水した真備町では、被災から 3 カ月で人口の 7%にあたる 1591 人が転出し、スーパーやホームセンターの撤退も相次いでいる。仮設住宅で暮らす人や地域に残ることを決めた人などからは「町はどうなるのか」と不安の声が増えてきている。そうしたなか、岡山マインド「こころ」は「月に一度、第 3 土曜に集まろう！」と「地ビールと音楽の夕べ」を開催。8 月 25 日には 300 人、9 月 15 日には 400 人もの人が集まり、再会を喜ぶ声や被災後の思いを語り合う場となった。また、3 年前から真備町内の高齢福祉分野事業所と障害福祉分野事業所、医療、行政、社協とともにつくりあげてきた「真備地区関係機関・事業所等連絡会」のなかに被災者支援プロジェクトを立ち上げ、地域の困りごとを拾い上げ解決につなげる「お互いさまセンター」を設立した。このセンターは、行政から社会福祉協議会に委託される「支え合いセンター」とも連携しながら、被災者が被災者を支援する自治組織としての機能を担う。岡山マインド「こころ」がその事務局を担当することで、多様な人が地域での役割を担う新たなダイバーシティの実現を目指す。このほか、「真備町復興プロジェクト 一緒にやろう！」に全国から寄付金を集め、被災した家の改修や新築する人々の義援金として手渡し、将来的には継続性のある復興のための基金をつくる計画。



●取り組むべき課題

・震災前から「誰もが暮らしやすい町」の実現に向けてさまざまな活動を続けてきた岡山マインド「こころ」だが、その活動の柱の一つに「音楽」がある。グループホームが水没した後も地域の復旧のために邁進してきた利用者の願い・生きがいは、「音楽を通じて地域に元気を届けること」。彼らが音楽活動を本格的に再開し、地域を盛り上げるためのイベントを継続していく支援が求められている。音楽イベントは被災者や障がい者にとって、こころの安定にもつながる重要な意味を持つ。

・岡山マインド「こころ」が事務局を務める「お互いさまセンター」は、医療・福祉の専門家集団として、地域の人々の相談に応じるが、今後、度重なる協議会の開催、長期にわたりまちづくりコーディネーターや防災専門家などによる研修を担うが、運営側の体制がまだ脆弱な部分があり、また 3000 世帯を超える「みなし仮設」や在宅避難者への支援に必要なマンパワーを確保する人件費へのバックアップが求められる。

●パートナー協働プログラム対象事業

①「音楽と地ビール祭」等イベントの継続と発展

岡山マインド「こころ」が掲げる復興のテーマは、「仲間」と「音楽」と「ビール」。この3つのうち「仲間」と「音楽」の活動を本格的に再開するために、まず水没した機材や楽器などを新たに購入し、日々の練習に力を入れるとともに、地域を盛り上げる「音楽と地ビール祭」などのイベントを月1回以上開催する。(スケジュール表別紙)

②「お互いさまセンター」のキックオフイベントの開催とその準備に向けた活動

2018年11月に設立する予定の「お互いさまセンター」は、地域の人々の相談・訪問事業を主に展開していくが、その過程のビックイベントとして、2019年3月にキックオフイベントを開催予定。2019年3月末までは町内の在宅被災者のニーズ調査や勉強会を開催しながら、基盤整備も含めての試行を行い、4月から本格的な始動を予定しており、その勢いを発信することで、啓発につなげる目的で開催する。

●期待される効果

①音楽を通じて地域が一つになる。音楽をかなでる障がい当事者の生きがい・こころの安定などにつながる。

②地域の人々の困りごとを一つ一つ丁寧に解決し、「お互いさま」の気持ちで誰もが助け合えるまちづくりを実現する。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

①「音楽と地ビール祭」等イベントの継続と発展

真備町民 23000 人

②「お互いさまセンター」のキックオフイベントの開催準備

真備町民 23000 人、倉敷市ほか